

JCESニュース

Japan Comparative Education Society

NO.29

第51回大会を終えて

大会準備委員長 藤井 佐知子(宇都宮大学)

梅雨入り宣言直後の6月12~14日に行われました日本比較教育学会第51回大会におきましては、多くの会員の皆様にご参加いただき心より感謝申し上げます。大会前は、このような大規模で伝統ある学会を滞りなく開催できるか不安な気持ちでいっぱいでしたが、初日の理事会、ラウンドテーブルで熱心に議論されている会員のお姿を拝見して、一気に元気が湧きました。そして土曜日の朝、晴れやかな青空のもと、会員の方々が次々と正門から会場に向かってこられる光景は、本当に嬉しいものでした。おかげさまで何事もなくすべてのプログラムを終えることができ、準備と当日の運営に携わったスタッフ全員で大会の無事終了を喜び合いました。このような素晴らしい体験をさせていただきましたことに、この場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は10のラウンドテーブル、121件の自由研究発表があり、いずれも熱心な研究発表および討議が行われていました。公開シンポジウムは開催校らしい企画をと考え、「多文化共生社会における教育」をテーマといたしました。本学会からは、池田賢市、近藤孝弘両氏にご登壇いただき、また、本学国際学部長田巻松雄氏をお迎えして、フランス、ドイツ、日本における移民や外国人児童生徒の教育や進路の問題について多角的に論じていただきました。学際的な観点からユニークな議論を展開できたのではないかと思います。約200名のご参加をいただき、盛況であったことは良かったのですが、席に余裕がなく窮屈な思いをされたのではないかと、大変申し訳なく思っています。また大人数ゆえに冷房の効きが悪く会場が蒸し暑くなってしまったことも残念なことでした。快適な環境を提供できず、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

大会校企画の課題研究 I は、「比較教育の観点からみた日本の大学入試改革(論)」をテーマに、イギリス、ドイツ、韓国の入試改革動向を参照しながら、日本の現下の大学入試改革論について論じるとともに、比較教育学としてこの問題にどのようなアプローチが可能か、という難題に挑みました。刺激的な発表や発言が相次いで大いに盛り上がり、あっという間の2時間半でした。

学会研究委員会主催の課題研究 II は、「災害後のコミュニティ復興と教育の役割」をテーマに、日本学術振興会による学術調査の報告、米国ニューオーリンズ市と神戸市長田区の復興に関する報告、ニュージーランドの事例報告を受けて、災害と復興に関わる様々なアプローチについて活発な意見交換がなされました。

初日に一時小雨が降ったのを除き、大会期間中は好天に恵まれ、教室間移動、また自由 研究発表会場からシンポジウム会場への移動も思ったような混乱はなく比較的スムーズに

■第51回大会報告-

行われたように思います。いずれの会場も狭く、くつろいでいただける空間が不足していたかとは思いますが、コンパクトな大学ゆえのこととして、お許しいただければ幸いです。

参加者は臨時会員も含めて一般が276名、学生が57名、計333名でした。懇親会にも一般122名、学生33名と大勢の方のご参加を賜り、大変賑やかなものとなりました。懇親会では、思い出になりますように、との願いから、宇都宮名物の餃子屋台を設けさせていただきました。大人気であっという間に完食となりました。お味の方はいかがでしたでしょうか。

大会運営において至らぬ点も多々あったかと存じますが、大会終了後にご参加いただいた先生方より温かいねぎらいの言葉を頂戴し、改めてこのような機会を与えていただいた学会の皆様に感謝申し上げる次第です。このほとんどは、当日、あるいは準備段階からアルバイトとして参加してくれた学生の頑張りによるものです。この学生たちが、学会運営を通して成長を遂げていく姿をみられたことは嬉しい副産物でした。大会をお引き受けして良かったな、と心から思うことができました。

改めまして、ご協力いただきました会員の皆様に、心から感謝の気持ちをお伝えしたい と思います。ありがとうございました。

<第51回大会の各会場風景>





課題研究I



公開シンポジウム



課題研究Ⅱ

第52回大会のご案内

大会日時: 2016年6月24日(金)、25日(土)、26日(日)

開催場所:大阪大学 豊中キャンパス

大会準備委員会:澤村信英(委員長)、園山大祐

連絡先: 〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学人間科学研究科 日本比較教育学会第52回大会準備委員会

D 11 1 50 1 0 11

E-mail: jces52.osaka@gmail.com



第25回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会委員長 西野 節男

第25回平塚賞候補作品について2015年1月15日 (必着)締め切りで募集した結果、自薦、他薦あわせて計4点の著作の応募がありました。平塚賞運営委員会は、2015年2月21日(土)に京都大学において選考委員会を開催し、今年度の平塚賞を久志本裕子会員の『変容するイスラームの学びの文化ーマレーシア・ムスリム社会と近代学校教育ー』(ナカニシヤ出版、2014年)に授与することを決定しました。授賞の理由は以下の通りです。

久志本会員の研究は、マレーシアにおけるイスラームの学びの文化が、学校制度化が進む中でどのように変化し、人々がその変化にどう向き合ってきたのかを明らかにしようとする。先行研究を丹念に渉猟し、精力的なフィールド調査で得られた知見に基づいており、著者の思いと熱意がこめられた力作である。

本研究は、近代学校におさまらない学びの文化に着目するという問題設定の独創性、方法論とアプローチに関する緻密な検討、フィールド調査の精力的な取り組み、深く・厚い記述、丁寧で精緻な分析などの点で卓越性が認められ、学術的に高く評価される。教育制度としての発展が、実感・感覚の点で学びの主体に必ずしも満足をもたらすものではなく、人々がそれを様々な形で補おうとしている点について、詳細な事例に基づき明らかにした。知の感覚的・体得的な側面の再認識の必要性は、イスラームの学習に限られるものではなく、他の学習にも当てはまるものである。マレーシアのイスラーム教育研究、地域研究としての秀逸にとどまらない学術的な意義を有している。

なお『比較教育学研究』第51号に本著の書評が掲載されているので、あわせてご覧ください。

第25回平塚賞を受賞して

久志本 裕子 (マレーシア国際イスラーム大学)

この度は、拙著『変容するイスラームの学びの文化ーマレーシア・ムスリム社会と近代学校教育ー』に対し、第25回平塚賞という栄誉ある賞をいただき、心よりありがたく存じます。本書は、2006年から2011年にかけてマレーシアで実施したフィールドワークと、この間に収集した史資料に基づき、伝統的イスラーム知識伝達における「学び」の文化と、近代的学校教育の拡大にともなう変容の過程を論じたものです。この研究の根本にあったのは、近代的教育が広まったとき、各社会・文化に固有な学びのあり方は過去のものとして消え行くのだろうか、という漠然とした疑問でした。マレーシアのイスラーム学習の事例から見出されたのは、全体としてはイスラームの「学び」が近代的教育制度の影響を強く受けたものへと変容する中で、イスラームに独自

の「学び」のあり方があるべきと考え、現代にそれを活かす方法を模索している人々の姿でした。本書で述べたわずかな事例を出発点として、より普遍的な問題に議論を発展させることができるよう、一層の努力を続ける所存です。これまでに導いてくださいましたたくさんの先生方・先輩方に心から感謝の気持ちをお伝えするとともに、今後もご指導賜りますようお願い申し上げます。



■各種委員会からの報告とお知らせー

●平塚賞運営委員会

委員長 西野 節男

平塚賞運営委員会は今年度も下記の要領で第26 回平塚賞の候補作品を募集します。応募は自薦・他 薦を問いません。ふるってご応募ください。応募要 領の詳細は日本比較教育学会ホームページまたは 紀要巻末掲載の「日本比較教育学会平塚賞規定」を ご参照ください。

記

- 1. 対象作品:2015年1月~12月に公刊された比較 教育学に関する著書・論文(分担執筆を含む。た だし連名のものを除く)。
- 2. 応募要領: 本学会ホームページ掲載の「平塚賞 候補著書・論文推薦書」 (MS-Word、PDF) に必要 事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出 すること。
- 3. 締め切り: 2016年1月15日(必着)
- 4. 送 付 先: 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1 第2ユニオンビル 4F (株) ガリレオ気付 日本比較教育学会・平塚賞運営委員会

委員長 西野 節男 宛

5. 問い合わせ先: g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp

●紀要編集委員会

委員長 江原 裕美

『比較教育学研究』第51号は通常よりかなり遅れてしまいましたが、このニューズレター到着の頃には、皆様方のお手元に到着していることと存じます。特集、自由投稿論文、そして書評、文献紹介に執筆してくださった会員各位にお礼申し上げます。また現在は第52号の編集に鋭意取り組んでいるところです。新しい紀要投稿要領となりまして間がありませんでしたが、会員の皆様には大いにご協力をいただきましてありがとうございました。おかげさまで形式審査でのミスの数はかなり減少しております。(改正の詳しい内容は本ニューズレターの該当部分をご覧ください。)

第53号の締め切り日は、2016年1月10日(厳 守/当日消印有効)です。なお第53号より、原稿 の提出・連絡先が下記の通り変更になりますのでご 注意ください。会員の皆様には投稿要領を良くお読 みいただきまして、どうぞふるってご投稿くださいますようご案内申し上げます。また第53号より、 投稿本数の増大に対応するため、新たに紀要編集委員を2名増員していただきました。強化された編集 委員会により、今後もさらにいっそう質の高い学会 紀要を目指して努力してまいりますので、どうぞよ ろしくお願いいたします。

【原稿提出・連絡先】

※第53号からはこちらの提出・連絡先になります

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学総合人間科学部教育学科内 日本比較教育学会紀要編集委員会事務局

Tel: 03-3238-3593 (杉村研究室) 03-3238-3649 (小松研究室)

03-3238-4293 (山崎研究室)

Fax: 03-3238-3980 (教育学科共通) Email: jces. sophia@gmail.com

●研究委員会

委員長 山内 乾史

研究委員会は今学会年度、下記の三つの活動を行った。

一つは大会時にラウンドテーブルの一つとして研究委員会主催の「比較教育学研究におけるアカデミック・ライティングについて」と題する場を設けた。近田政博会員、西村幹子会員、田中正弘会員の熱心な報告のおかげもあり、有益な議論の場となった。次年度はアカデミック・プレゼンテーションについて開催し、最終年度には研究倫理について開催し、これらの3年間のラウンドテーブルの成果を書籍として刊行する予定である。

二つは大会の課題研究IIの企画である。今年度に関しては、前期の杉村美紀委員長時代のテーマで「災害後のコミュニティ復興と教育の役割」と題して開催した。杉村会員はじめ、丸山英樹会員、大倉健太郎会員、高橋望会員、西井麻美会員、非会員の湯藤定宗氏に登壇していただき熱心に議論していただいた。私は司会を務めたにすぎない。次年度からは学会科研のテーマに沿った設定をする予定である。

三つは学会科研の申請である。前期の学会科研が 今年度で終了するので、今期の研究委員会が申請す

■各種委員会からの報告とお知らせ-



ることになる。テーマとしては「グローバル化時代における才能教育ーその研究と政策形成へのインパクトー(仮)」を考えている。ご意見等があればぜひお寄せいただきたい。

●国際交流委員会

委員長 近藤 孝弘

昨年度は、会員からお寄せいただきました海外関連学会情報に交流委員会委員が収集した情報を加えて学会ウェブサイトに掲載してまいりましたほか、宇都宮大学での第51回大会に清州教育大学校の鄭圭永教授をお招きし、石川裕之委員の司会で、ラウンドテーブル「終戦(光復)70周年-日韓基本条約50周年に比較教育学はなにを考えるかー」を開催いたしました。

今年度は若干趣旨を変えまして、特に<u>若手会員を</u>対象に、海外で開催される関連学会等への参加を支援する形で、国際学術交流のさらなる活性化を図ってまいります。<u>本ニューズレターの最後のページに記しましたように、支援プログラムの詳細は近く学会ウェブサイトでお知らせします</u>ので、ご関心のある方はぜひご注意ください。

なお海外学会大会についての情報は、引き続き常時 kokusai jces@yahoo. co. jp で募集しております。 情報の共有に積極的にご協力くださいますよう、よ ろしくお願い申し上げます。

ORICE

担当理事 長島 啓記

「比較・国際教育情報データベース(RICE)」の収録文献数は、2015年6月1日現在で53,427件となっています。RICE作成委員会ではデータ入力に努めていますが、データの収集、登録には限りがあるというのが現状です。繰り返しで恐縮ですが、会員の皆様ご自身の著作や論文について、学会のウェブサイトからデータ入力をお願いする次第です。RICEのサイト(http://jces.sakura.ne.jp/rice/)から「新規文献をRICEに登録する」⇒【RICEウェブサイト上から登録】か【データ登録用エクセルシートをダウン

ロードして登録】のいずれかを選択→入力という手順になります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご不明の点がありましたら、RICE作成委員会 (ricejces@gmail.com)までお問い合わせください。

●教育関連学会連絡協議会

担当理事 窪田 眞二

教育関連学会連絡協議会は、教育関連学会の緩やかな連携組織です。現在約70学会が加盟しており、年1回の総会と公開シンポジウム開催、政府への政策提言、大型研究計画への参加準備、学会間の交流などの活動を目的としています。

第3回総会が2015年3月14日(土)に学習院大学を会場に開かれ、2014年度会計報告、次年度の活動計画などの審議の後、運営委員会委員、代表、事務局の選出が行われました。代表、運営委員は以下の通りです。(代表)佐藤学、(運営委員)松浦良充、藤田英典、勝野正章、加野芳正、深澤広明、角屋重樹、三石初雄、金子元久(事務局長)、大桃敏行、秋田喜代美。

引き続き、『教師教育の現在と未来』と題する公開 シンポジウムが行われました。江原裕美会員が秋田 喜代美氏とともに司会をされ、報告者は、山﨑準二 氏、三石初雄氏、角屋重樹氏、指定討論者は、佐藤 学氏、牛渡淳氏でした。参加者数は75名でした。

次回のシンポジウムについては、学会ホームペー ジでご案内する予定です。

●WCCES(世界比較教育学会)

担当理事 杉本 均

前号でもお伝えしました通り、昨年度は2014年11月18・19日にマドリッドのスペイン自治大学で開催されたWCCES理事会に参加いたしました。同理事会においてベネズエラ、ハンガリー、ポルトガルの関連学会の加盟が認められ、今後はニカラグア、イランの関連学会の加盟が予定されています。また現在、WCCESの学会ロゴの変更も検討されています。

次回の第 16 回 WCCES 世界大会は、2016 年 8 月 22 ~26 日に北京師範大学で開催されます。会員の皆様におかれましても、ぜひふるってご参加ください。

第51回大会 総会

2015年6月13日(土)に宇都宮大学峰キャンパスにおいて第51回大会総会が開催されました。総会の議事次第と承認された2014年度決算報告および2015年度予算案は以下の通りです。

議事次第

日時

2015年6月13日 (土) 17:20~18:20

場所

宇都宮大学峰キャンパス 峰町5号館5B12

- 1. 開会の辞
- 2. 会長挨拶
- 3. 大会開催校代表挨拶
- 4. 議長団選出

- 5. 2014年度事業報告(事務局、各種委員会)
- 6. 2014年度決算報告および監査報告
- 7. 平塚賞贈呈
- 8. 2015年度事業計画(事務局、各種委員会)
- 9. 2015年度予算案
- 10. 第52回大会開催校について
- 11. 『比較教育学論集(仮)』企画について
- 12. 会則・規定の改正について
- 13. その他
- 14. 閉会の辞

2014年度 決算報告

ウェブ版では非公開





(2014年度 決算報告 続き)	
	ウェブ版では非公開
	2015年度 予算案
	ウェブ版では非公開

会則等の改正について

日本比較教育学会 会則の改正

2015年6月13日(土)に開催されました総会における承認を経て、以下の通り会則が一部改正されました。

<改正の理由・意図>

現在、本学会の会計は大きく、「一般会計」、「学会賞会計」、「特別運用会計」の3つに区分されて運用されているのに対して、今回の改正以前の会則では「一般会計」と「特別運用会計」の2つについてしか規定がありませんでした。こうした不整合な状態を改め、規定を現在の学会会計の運用実態に合った内容とするために今回の改正を行いました。

[改正以前]

第6章 会計

- 第19条 本会の経費は会費、寄付その他の収入をもってあてる。寄付の受け入れに関する手続きは別に定める。
- 第20条 会計は通常会計と特別運用会計とに分つ。
- 第21条 (1)特別運用会計は、寄付金の受け入れおよび通常会計からの繰り入れをもって原資とする。
 - (2) 特別運用会計の財源は、学会活動の円滑な運営および学会の発展に資する事業に充当することができる。
 - (3)特別運用会計は、常任理事会の議を経て運用し、理事会および総会に報告して承認を受けなければならない。ただし、あらかじめ予算案を理事会および総会に提出する必要はない。
- 第22条 本会の会計年度は(毎年)4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

[改正以後] (平成27年度総会改正)

※下線部が今回改正された箇所

第6章 会計

- 第19条 本会の経費は会費、寄付その他の収入をもってあてる。寄付の受け入れに関する手続きは別に定める。
- 第20条 会計は一般会計と特別会計とに分つ。特別会計として、学会賞会計と特別運用会計を設ける。
- 第21条 (1) 特別会計は、寄付金の受け入れ、利息および一般会計からの繰り入れをもって原資とする。
 - (2) 特別会計のうち、学会賞会計の財源は、平塚賞にかかる事業に充当するものとする。また、特別運用会計の財源は、学会活動の円滑な運営および学会の発展に資する事業に充当することができる。
 - (3) 特別会計は、常任理事会の議を経て運用し、理事会および総会に報告して承認を受けなければならない。ただし、あらかじめ予算案を理事会および総会に提出する必要はない。
- 第22条 本会の会計年度は(毎年)4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。



日本比較教育学会 平塚賞規定の改正

2015年6月12日(金)に開催されました理事会における承認を経て、以下の通り平塚賞規定が一部改正されました。

<改正の理由・意図>

今回の改正以前の規定では、平塚賞運営委員会委員の人数や委員資格が明確でありませんでした。 そこで、運営委員会は10名で構成すること、また運営委員は理事であることが望ましいという理事会 の結論を規定に反映するため、今回の改正では運営委員会の構成人数を「原則10名」とするとともに、 委員資格喪失者が現れた場合は選挙結果に基づき次点者を繰り上げることを明示しました。なお、「原 則10名」としたのは、たとえば運営委員会の任期終了間近で委員が異動された場合など、次点者を繰 り上げして運営委員を10名に戻す必要性が低いと考えられるケースを想定してのことです。

[改正以前]

- 1 名称:この賞は、日本比較教育学会平塚賞と称する。
- 2 趣旨:初代会長平塚益徳博士の業績を記念し、比較教育学研究の発展を期して、若手学会員の研究を奨励することを目的とする。受賞者には賞状ならびに賞金を授与する。
- 3 対象者と賞金:毎年原則として1名、10万円
- 4 審査対象:前年の1月から12月までに公刊された学会紀要掲載論文ならびに比較教育学研究に関する著書・論文(分担執筆を含む。ただし連名のものを除く)で、自薦あるいは他薦により、日本比較教育学会平塚賞運営委員会あて、毎年1月15日(必着)までに、この賞に応募する旨、所定の推薦書により申し出たもの。(当該著書・論文1部を届け出ること。)
- 5 運営委員会:本学会理事の互選による10名以内で構成する。運営委員の任期は3年とし、再任は妨げない。運営委員長は運営委員の互選による。
- 6 審査手順:毎年2~3 月に審査委員会において審査を行い、受賞者を決定し、年次大会において発表する。
- 7 この規定は、会則第24条に基づき、理事会が定めるものとする。
- 8 (略)

「改正以後」(平成27年度理事会改正)

※下線部が今回改正された箇所

- 1 名称:この賞は、日本比較教育学会平塚賞と称する。
- 2 趣旨:初代会長平塚益徳博士の業績を記念し、比較教育学研究の発展を期して、若手学会員の研究を奨励することを目的とする。受賞者には賞状ならびに賞金を授与する。
- 3 対象者と賞金:毎年原則として1名、10万円
- 4 審査対象:前年の1月から12月までに公刊された学会紀要掲載論文ならびに比較教育学研究に関する著書・論文(分担執筆を含む。ただし連名のものを除く)で、自薦あるいは他薦により、日本比較教育学会平塚賞運営委員会あて、毎年1月15日(必着)までに、この賞に応募する旨、所定の推薦書により申し出たもの。(当該著書・論文1部を届け出ること。)
- 5 運営委員会:本学会理事の互選により、原則として10名で構成する。運営委員の任期は3年とし、再任は妨げない。<u>欠員が生じた場合は互選時の際の得票順に繰り上げ当選とする。</u>運営委員長は運営委員の互選による。
- 6 審査手順:毎年 2~3 月に審査委員会において審査を行い、受賞者を決定し、年次大会において発表する。
- 7 この規定は、会則第24条に基づき、理事会が定めるものとする。
- 8 (略)

日本比較教育学会紀要 投稿要領の改正

2015年6月12日(金)に開催されました理事会における承認を経て、以下の通り学会紀要の投稿要領が一部改正されました。

<改正の理由・意図>

今回の改正以前の投稿要領では、投稿論文の注の番号形態を「(1)(2)……」のように定めていましたが、MS Wordにこの形式がなく執筆者に苦労を強いているため、「1、2、3……」のように改めました。また、投稿論文の形式違反が非常に多いため、投稿時に投稿者自ら形式違反がないかチェックしてもらうよう、チェックシートの提出を義務化しました。

[改正以前]

4. 図・表・注等の規格

(3) 注の番号形態は「(1)(2)……」とする。

5. 提出原稿・書類

- (1) 投稿にあたっては以下の原稿及び書類等を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。
 - ①原稿4部(内3部は複写可)
 - ②和文題目及び和文要旨(800~1,000字)を記載したA4判用紙4部
 - ③英文題目及び800語~1,000語の英文要旨4部
 - (①~③には執筆者氏名、所属機関名を記載しないこと)
 - ④下記の事項を記載した別紙1部
 - ・執筆者氏名 (日本語及び英語表記)
 - ・所属機関名(日本語及び英語表記)
 - ・論文題目(和文及び英文)
 - ・メールアドレス等の連絡先

(なお氏名等の英語表記については『比較教育学研究』巻末の英文目次を参照のこと)

⑤ (ワープロ原稿で提出する場合) 上記の①から④のデータを記録したCD-R、DVD、USBフラッシュメモリのいずれかも提出すること。ファイル形式は「Microsoft Word」または「一太郎」とし、記録媒体には執筆者氏名を明記すること。

[改正以後] (平成27年度理事会改正)

※下線部が今回改正された箇所

4. 図・表・注等の規格

(3) 注の番号形態は「1、2、3……」とする。

5. 提出原稿・書類

- (1) 投稿にあたっては以下の原稿及び書類等を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。
 - ①原稿4部(内3部は複写可)
 - ②和文題目及び和文要旨(800~1,000字)を記載したA4判用紙4部
 - ③英文題目及び800語~1,000語の英文要旨4部
 - (①~③には執筆者氏名、所属機関名を記載しないこと)
 - ④下記の事項を記載した別紙1部
 - 執筆者氏名(日本語及び英語表記)
 - ・所属機関名 (日本語及び英語表記)
 - ・論文題目(和文及び英文)
 - ・メールアドレス等の連絡先

(なお氏名等の英語表記については『比較教育学研究』巻末の英文目次を参照のこと)

- ⑤論文投稿チェックシート。学会のウェブからダウンロードし、記入すること。
- ⑥ (ワープロ原稿で提出する場合) 上記の①から④のデータを記録したCD-R、DVD、USBフラッシュメモリのいずれかも提出すること。ファイル形式は「Microsoft Word」または「一太郎」とし、記録媒体には執筆者氏名を明記すること。



■お知らせー

●学会役員の交代について

北海道・東北地区選出の小川佳万理事について、転任による理事資格の喪失が生じたため、会則細則第6条(2)の規定に従い、2015年4月1日付で青木麻衣子会員が理事となりました。

これに伴い、平塚賞運営委員会委員について も、2015年4月1日付で小川佳万理事から中矢礼 美理事に交代となりました。

●新入会員(2015年2月~2015年9月 入会申し込み順)

ウェブ版では非公開

ウェブ版では非公開

(2015年9月13日現在の会員数 967人)

● 年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある 方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたしま す。紀要は年2回発行ですが、本学会では<u>当該年度</u> の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』 をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は 会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161 日本比較教育学会事務局

- *ご所属先を通じて納入される方は、入金の際に必ず事務局までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。
- *所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員 を特定することが難しいため、必ず事務局へご連 絡をお願いします。

【注意】

「学生会員」として登録されている会員が学生でなくなった場合は、速やかに事務局へご連絡の上、「通常会員」への資格変更手続きを行ってください。また、「学生」でなくなった会員は、会員情報管理システムにて通常会員へ変更の上、通常会員としての年会費(10,000円)をお支払いください。

●学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚く御礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

■お知らせー

- ・岩崎久美子『フランスの図書館上級司書-選抜・ 養成における文化的再生産メカニズム-』明石 書店、2014年。
- ・江原武一『大学は社会の希望か一大学改革の実態からその先を読むー』東信堂、2015年。
- ・大谷泰照編集代表、杉谷眞佐子・橋内武・林桂 子編『国際的にみた外国語教員の養成』東信堂、 2015年。
- ・北村友人『国際教育開発の研究射程-「持続可能な社会」のための比較教育学の最前線-』東信堂、2015年。
- ・絹川正吉『「大学の死」、そして復活』東信堂、 2015年。
- ・張揚『現代中国の「大学における教員養成」へ の改革に関する研究』学文社、2014年。
- ・長濱博文『フィリピンの価値教育-グローバル 社会に対応する全人・統合アプローチー』九州 大学出版会、2014年。
- ・松尾知明『21世紀型スキルとは何かーコンピテンシーに基づく教育改革の国際比較ー』明石書店、2015年。
- ・山中冴子『オーストラリアにおける障害のある 生徒のトランジション支援』学文社、2014年。

- ・アンドレス・オッペンハイマー (渡邉尚人訳) 『ラテンアメリカの教育戦略-急成長する新興 国との比較-』時事通信社、2014年。
- Asuka Kawano, *Mahalla and its Educational Role: Nation-Building and Community Education in Uzbekistan*, Kyushu University Press, 2015.
- ・日本国際理解教育学会編『国際理解教育ハンド ブックーグローバル・シティズンシップを育む ー』明石書店、2015 年。

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院教育学研究科 日本比較教育学会・京都大学内事務局

Tel/Fax: 075-753-3039

E-mail: jcesjimu@outlook.jp

会員情報、入退会、会費、システム、HPに関する連絡

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1

第2ユニオンビル4F

(株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内 日本比較教育学会事務局

Tel: 03-5981-9824 Fax: 03-5981-9852 E-mail: g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp URL: http://www.gakkai.ne.jp/jces/

若手研究者海外学会等派遣プログラムのご案内

国際交流委員会では国際学術交流の一層の推進を目的として「若手研究者海外学会等派遣プログラム」を開始することになりました。

第1回として今年度は、2016年1月26・27日にフィリピンで開催予定のCompare Writers Workshop の参加者に対し、2名を上限に渡航費・参加費の補助(1名あたり5万円以内)を行います。

申し込みの書式ならびに締切り等の詳細につきましては近日中に本学会ウェブサイトで発表いたしますので、 関心のある方はご注意ください。Compare Writers Workshop の情報につきましても、同じく学会ウェブサイト で随時お知らせしていく予定です。

本プログラムについての問い合わせ先: kokusai jces@yahoo. co. jp (国際交流委員会)